



心筋梗塞からあなたの命を救うのは、あなた自身が病気を
知ること！

～コロナ禍の受診控えに要注意～

循環器内科 科長 田中 信大

心臓の病気の中でも、心筋梗塞という病気は、急に発病し命を落とす危険性の高い病気です。病気から命を救うためには、少しでも早く病院に来ていただくことが重要です。

コロナ禍の中では、感染のリスクを避けるためなるべく病院に行きたくない、という受診控えが多いと言われています。確かに不要不急の場合は外出を控える、というのは大切なことです。しかし心筋梗塞の可能性がある場合には、なるべく早く、病院に行くことが重要です。病気のことをよく知った上で行動しましょう。

近年日本でも、食事の欧米化や高齢化の影響により、狭心症・心筋梗塞という病気が増えています。特に心筋梗塞は、命を落とす危険性の高い病気ですので、その特徴を良く知っておいただくことが重要です。

八王子医療センターが開院したころ（1980年）は、心筋梗塞という病気にかかるると5人に一人が命を落としていました。しかし心臓のための集中治療室の整備や、緊急カテーテル治療の普及により、死亡するリスクは半減しました。八王子医療センターも開設当初より心臓集中治療室CCUを有し、八王子地区の心臓病救急治療に当たっていました。“いかに早くカテーテル治療を行うか”という時間短縮が、病気の救命率を上げるためには非常に重要であるため、当院でも365日24時間体制で、救急診療を行っています。しかし、それ以上に大事なものは、“病気になってから病院に行くまでの時間”の短縮なのです。胸が苦しくなった時に、“まだ大丈夫だから”“夜中だから”“自分が心臓病にかかるはずないから”などと考え、自宅で我慢してしまっただけで病院に来るのが遅れると一大事になることもあります。糖尿病をお持ちの方は、時に胸の苦しさをあまり強く感じないため、“まさか自分が心筋梗塞”とは思わないことも多いようです。しかしその糖尿病を持っていること自体が心筋梗塞を起こす大きなリスクであることを認識しておかなければなりません。

心筋梗塞の症状は、胸全体が“押さえつけられる”“締め付けられる”“重い”などと感じることが多く、15分以上持続し、時に冷や汗や吐き気を伴うことがあります。痛む場所も胸に限らず、顎が締め付けてきたり、左肩やみぞおちの痛みとして感じたりすることもあります。本人は痛みを強く感じていなくても、顔色が蒼くなっている場合は要注意です。

糖尿病のほか、高血圧症、高コレステロール血症で通院されている方、タバコを吸っている方、メタボと言われている方は、心筋梗塞を起こしやすいと言われておりますので、上記のような症状が起こった場合には、すぐに病院・救急隊に連絡をして、相談するようにしてください。病院に到着する時間が遅れるほど、命を落とす危険性が高くなる病気であることを知っていることが大切です。